

事例研究レポートの作成について

指導実習では、実際の事例を通して、児童・生徒の学習面を中心に、対象事例の情報収集、アセスメント、個別指導計画の作成まで行います。

1. 事例研究レポート（1例）の作成について

事例研究レポートは、学習に課題のある児童・生徒1名について観察し、以下の様式を使用して作成してください。（A4用紙2枚まで、できるだけパソコンで作成）

やむをえず事例を準備できない方は、テキストI巻「アセスメントの総合的解釈」P171の事例Bを使い、事例研究レポートを作成してください。

2. 事例研究レポートの記入上の注意

- ①受講登録番号・氏名の欄：ご自身の受講登録番号・氏名を忘れずに記入してください。
- ②対象児の記載：対象児は、個人が特定できないように記載してください。イニシャルは使わないようにしましょう。
例) A児
- ③診断または判断：医師による診断名がある場合、公的機関での認定がある場合には、それを記入してください。
例) A 医療センターでADHDという診断を受けた。
診断名がない場合には、あなたの判断または学校での判断を書いてください。
例) LD（読み書きのLD）の疑い
- ④学習上の課題：対象児を観察または諸検査を実施し、学習上の課題を5点まで書いてください。
例) 拗音や促音での読み誤りが多く、国語の本がスラスラ読めない。
例) スラスラ読めないため、国語は初読では内容理解ができない。
- ⑤行動・社会性の課題：対象児のかかえる行動と社会性の課題を5点まで書いてください。課題がない場合には「特になし」と書いてください。
例) 一斉指示では、聞き逃しが多い。
例) 自己主張が強く、友達とのトラブルになりやすい。
- ⑥心理検査等の結果からわかること：心理検査を実施している場合には、その検査名と結果を記入し、検査結果からわかったことを記入します。心理検査のみならず、読み書き検査、チェックリストなどの結果も記入します。
- ⑦通常クラスまたは支援学級における配慮事項（合わせて5点程度）：学習上の課題、行動・社会性の課題に合わせ、通常クラス及び支援学級における配慮事項を書きましょう。ここでは、対象児の抱える課題に対応する配慮であることが大切です。

